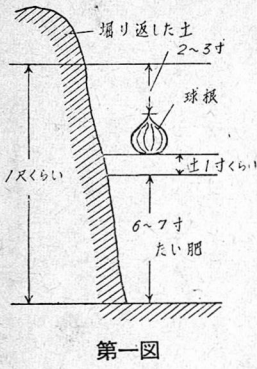


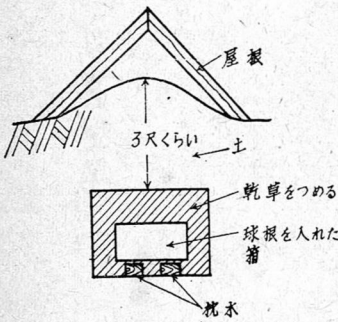
球根の植え方と保存

チューリップやヒヤシンスなどは今が植付けの時期です。また夏の間咲き誇ったタリヤはやがて球根を保存する時期になります。来年の花壇を賑やかに楽しむために、これらの花の球根の植え方と保存の注意をお話ししましょう。

原 秀 雄



第一図



第二図

◇：秋に植える球根は、チューリップ（一重咲一球十五—三十円、八重咲四十一—五十円）スイセン（十五—百円）ヒヤシンス（六十円）ユリ（二十一—百円）などで、植付けの期間は九月から遅くとも十月一ぱいの間です。球根は植えるとすぐ根を張って芽を出し冬の間は土中であつて花を咲かせる準備をしているわけですが、この期間が長いほどよい花が咲きますので、なるべく早目

に植えた方がよいでしょう。遅くなつてから植えた場合はワラやムシロなどをかけておかないと、球根が霜柱のために浮き上がつてしまうことがありますから注意が必要。大体九月中に植えればそのような心配はないでしょう。

球根を選ぶときは、手で触つてみて固く

しまつた、内容の充実したものがよく、柔らかいぶよぶよしたものや、しなびたもの、また色の変つたはん点のあるものなどは、古かつたり病気の恐れもありますから避け方がよいでしょう。

◇：肥料はたい肥がいちばんききめがあります。たい肥を埋め込むには花壇を深さ一尺ほどに掘つてその底にたい肥を厚さ六七寸くらいに敷き、上から一寸くらい土をかけて少し踏み固めます。こうして球根を植えるわけですが、植える深さは球根の上から地面までチューリップは二寸五分、ヒヤシンスは三寸、スイセンは二寸から二寸五分、ユリは三寸くらいが適当でしょう。また間隔はチューリップが五、六寸、ヒヤシンス七、八寸、スイセン三寸程度。

またたい肥を埋め込むときは、花壇全体に埋め込んでも、球根を植える部分だけに穴やミゾを掘つて埋め込んでもどちらでもよいのです。（第一図）

たい肥がない場合は、花壇全体を掘返し、油カスや魚カスを坪当り四、五十匁ほど土とよくまぜてやります。施肥の時期は植付けの二週間くらい前がよいでしょう。

◇：球根は一度植えれば三年くらいはそのまゝにしておいてよいのですが、毎年植替えるようにすればよい花が咲きます。

タリヤやカンナは春先に植えるもので、これから球根を掘り取つて保存しなければなりません。その注意を二、三。

掘り起す時期は大体十月中で、霜が降り

て花や葉がしおれたころ早くに掘るようにします。掘るときは茎を地上一寸くらい残して切り、品種名を書いた札をつけてから掘り、表面が乾いて土がポロポロ落ちていかに乾かします。掘つてから日向で二、三日乾かす人がありますが、それほどの必要はありません。保存には木箱に新聞紙五、六枚を重ねて敷いて球根を並べ生木のオガクズでいどの湿気をもつたオガクズを間に詰めふたをし、新聞紙四、五枚に包みま

す。球根は素人が分けると芽のないものを作るおそれがありますから分けないでおき春にそのまま植えます。箱を置く場所は摂氏三、四度より下がらぬように茶の間や、押入れなどあまり温度の変化のないところにおきます。保存に適した温度は摂氏五、六度くらいです。

排水のよい土地では土中に保存することもできます。この場合土を三尺くらい掘つてまくら木を置き、箱をその上においてその周囲を牧草の乾したもので囲み土を盛ります。できればその上に屋根をつけて水が入らぬようにします。（第二図）

（北大植物園主任）